

花巻の仕事

Made in HANAMAKI

みそ屋の甘辛大根



みそ漬け大根のうま味と青唐辛子の辛さ、地元造り酒屋の吟醸酒かすの甘味を生かした漬物。パリパリとした食感と程よい甘辛風味が楽しめます。温かいご飯に、酒のさかなに、お茶請けにと何にでも合う逸品です。

会社名 ハコショウ食品工業株式会社

所在地 湯口字洗沢21(☎0198-25-2229)

会社概要 創業明治18年、老舗のみそ・しょうゆ屋。その醸造技術を生かして50年前からみそ漬けの製造を開始。原料の野菜にこだわり、おいしく安心安全な製品を送り出している。万能つゆ「料理人」、うま味しょうゆ「一の紫」も好評

電子マネーで支払わせるアダルトサイトの請求に注意！

■どんなトラブルがあるの？

○スマートフォンで、無料だと思ったアダルトサイトに入り「18歳以上」をタップ(画面を軽くたたく)したら、入会金約10万円の請求画面が出た。慌てて「退会はこちら」をタップすると業者に電話がつながり、「退会に20万円かかる。コンビニでプリペイド型電子マネーを購入し、その番号を教えるように」と言われた。電子マネーを購入し、業者に支

払うため番号を教えたが、その後もしつこく電話で請求される

■注意することは？

○カード番号だけでやり取りできるタイプの電子マネーでは、支払ったお金を取り戻すことは困難です。業者の指示に従わないようにしましょう

○業者に連絡することで個人情報を知られ、さらに請求される可能性もあります。安易に連絡しないようにしましょう

■困ったときは？

○市民生活総合相談センター(☎24-2111 内線259)へ

市民生活コーナー

三陸を助きたい 花巻から支援と情報発信

東日本大震災の発生当時、大槌町の浪板観光ホテルに勤務していた平野菊枝さん。市内で避難生活をしながら交流産直「結海」の店長として被災地支援を続けています。

◆交流産直「結海」とは
震災の時、私たち従業員が避難誘導し、ホテルに宿泊されていた秋田県五城目町の老人会の皆さんの命を救うことができました。このことがきっかけで大槌町と五城目町の交流が始まり、両町の中間の花巻市西宮野目にオープンしたのが交流産直「結海」です。

◆結海での活動は
三陸・五城目・花巻の特産品のほか、市内に避難している皆さんの手芸品を販売しています。お茶会などのイベントも企画して被災者と花巻市民との交流にも力を入れています。

◆励みになっていることは
取り扱う商品が増えてきたことです。商品が増えるということは被災地で商品を作る設備ができた証拠。少しずつですが復興していることを感じます。

◆今後の目標は
結海から被災地の情報を全国に発信していきたいです。イベントも開催しているので、皆さんもぜひ足を運んでみてください。

イー・トゥーブ人 PERSON'S 102



平野 菊枝 さん
(南万丁目 65歳)

世界と花巻 The world and HANAMAKI vol.23



花巻市国際都市推進員
朴 銀貞 さん

韓国の受験模様

韓国の教育制度は日本と同じ6・3・3制で、日本の小学校に当たる初等学校と中学校が義務教育です。学校年度は毎年3月に始まり、翌年の2月に終わります。韓国は受験競争が激しいといわれていて、多くの子どもたちが幼稚園や初等学校のころから英語などの塾へ通います。高校では大学受験に向けて、正規の時間割が終わった後も、補習授業などで、夜遅くまで勉強する姿もよく見られます。そのため学校の図書館も、夜9時過ぎまで開いているところが多くあります。一般的に、生徒たちは大変勉強熱心で、放課後の補習授業にも7～8割の生徒が参加します。

もちろん勉強ばかりではありません。クラブ活動も盛んに行われていて、放課後、生徒たちはさまざまな運動部や文化部の活動に参加しています。ところで、日本では受験にまつわるさまざまな

ジンクスがありますね。例えば、勝つという意味で“トンカツ”を食べることなどです。また、試験に落ちるという意味の「すべる」という言葉を避ける傾向もあります。

これは韓国も同じで、例えば“ワカメ”はツルツルと「すべる」ので受験の時食べると落ちるというジンクスがあります。一方で、昔、鯨が産後にワカメを食べて体を癒しているのを見たという先人からの言い伝えで、誕生日にワカメスープを必ず飲むという習慣もあります。

私が受験の時、わが家では、ワカメスープを飲むと落ちるかもしれないという説を強く信じる父と、娘にワカメスープを飲ませて受験に向けて栄養をつけさせようとする母が、ワカメをめぐるもめていました。今思えば、これも子どもを思うがゆえのことだったと感謝しています。

いきいき仲間たち



図書ボランティアサークルちえの輪は、平成6年10月の発足から20周年を迎えています。

発足当時、図書館がなかった東和地域で、図書館整備に向けた機運を高めたという思いから、駅や病院などに文庫を設置する文庫活動をスタート。平成20年8月には、土沢商店街に児童書専門ルーム「空飛ぶ本屋」を開設するなど、多くの人に本に触れる機会を提供しながら本の啓蒙活動に取り組んできました。

現在、東和地域の女性10人で活動。空飛ぶ本屋で本の貸し出しや新刊・古書探しのお

手伝いをしてほかに、東和図書館、市内外の学童や幼児施設などを訪問し、本の読み聞かせやパネルシアターの上演などを行っています。

20周年の節目を迎え、会の皆さんは「これからも本の素晴らしさを声に出して伝えていきたい」と、気持ちを新たにしています。



発足20周年に合わせて作成したパネルシアターを上演する会の皆さん

本の素晴らしさを伝えて20年

図書ボランティアサークル ちえの輪

【問い合わせ】 ちえの輪 空飛ぶ本屋
菊池さん(☎080-1834-2179)

